津波と火災で被災、真っ黒に焼けただれた大槌小学校２階の教室＝2011 年 3 月 31 日、岩手県大槌町（撮影：新藤健一）

子どもたちの 3.11
ユニセフ東日本大震災報告写真展

■参加新聞通信社 25 社（順不同）

朝日新聞	岩手日報	北羽新報	いわき民報
毎日新聞	岩手日日	秋田魁新報	常陽新聞
読売新聞	河北新報	山形新聞	千葉日報
共同通信	福島民報	新潟日報	埼玉新聞
時事通信	福島民友	茨城新聞	
東京新聞	東奥日報	静岡新聞	
産経新聞	デーリー東北	中日新聞	

■参加写真家 21 名（順不同）

田沼武能	花井 尊	桃井和馬
細江英公	安達洋次郎	高橋邦典
熊切圭介	野町和嘉	野澤亘伸
江成常夫	西宮正明	鍵井靖章
桑原史成	森住 卓	佐々木康
久保靖夫	豊田直巳	野田雅也
新藤健一	Q.サカマキ	上田 聡

2011年

11月19日(土)－12月17日(土)

桐蔭学園メモリアルアカデミウム
ソフォスホール　入場無料

MEMORIAL ACADEMIUM

バスでのご来場をお願い申し上げます。田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約 15 分

■開館時間／10:30－17:30（入館は17:00 まで）　■休館日／日・祝
■主催／学校法人桐蔭学園
■協力／日本新聞博物館、東京写真記者協会、東北写真記者協会
■特別協力／公益財団法人日本ユニセフ協会 unicef
■協賛／ Nikon Canon FUJIFILM TAMRON
紀伊國屋書店、共立、京浜警備保障、サカクラ、清水建設、千代田ビル管財、三友、有隣堂、横浜銀行
■ロジスティック／ 写真弘社
■構成／新藤健一

子どもたちの3.11
ユニセフ東日本大震災報告写真展

ユニセフの救援物資を乗せ、被災地を走るみやぎ生協の支援トラック。宮城県や岩手県では30年以上にわたりユニセフを支援してきた生活協同組合が救援物資を各地の避難所まで輸送した＝2011年3月23日、宮城県女川町（撮影：新藤健一）

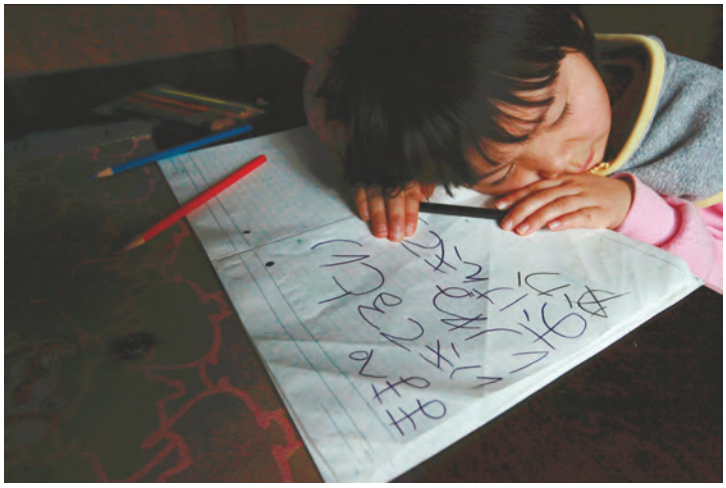
2011年3月11日、日本は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われました。その直後から、日本ユニセフ協会には、国内外から被災した子どもたちのために温かい支援が寄せられました。ニューヨークのユニセフ本部もまた、日本ユニセフ協会を通じ、約半世紀ぶりとなる日本への支援を表明しました。

日本ユニセフ協会は、被災地の方々とともに、子どもたちの健康を守り、教育を再開し、心の回復を支える活動を展開して参りました。子どもたちが直面しているいくつもの苦難、そして子どもたちを守りながら必死に復興に向かって歩む被災地の方々の姿を目の当たりにし、私たちは、この災害の惨状と窮状、子どもたちの実情、皆さまからの募金によって展開された緊急支援並びに復興支援活動の様子を世界に伝えるとともに、息の長いご支援を訴えていかなければならないと強く感じました。

このたび、多くの著名な写真家の方々、国内報道各社、協力企業の皆さまにご支援いただき、写真展という形で広くご報告する機会を得ることができました。本写真展の実現にご協力くださった皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

写真1枚1枚の向こうにあるそれぞれの大切な命と、被災を乗り越えて生きる子どもたちの姿、そして復興への希望を、一人でも多くの方に感じていただければ幸いです。

公益財団法人　日本ユニセフ協会



東日本大震災で大津波に遭い、奇跡的に助かった愛海ちゃん（4才）。両親と妹が行方不明になり、一人ぼっちになった。「ままへ手紙を書く」と言い出した。1文字1文字、1時間近く書いた。「ままへ。いきてるといいね。おげんきですか」。書いて疲れたのか、すやすやと寝入った＝2011年3月22日、岩手県宮古市（撮影：読売新聞 立石紀和）

原発事故で避難、体育館で寝る福島県浪江町の子どもたち＝2011年3月17日、山形市総合スポーツセンター（撮影：佐々木康）

『子どもたちの3.11 ユニセフ東日本大震災報告写真展』開催によせて

桐蔭学園理事長　榊原　滋

2011年3月11日14時46分。私たちはこれまで経験したことのない震災に遭遇しました。日本国内において観測史上最大規模のマグニチュード9.0、最大震度7。地震の影響で発生した大津波は、東北・関東地方の太平洋沿岸部で猛威を振るい、戦後最大の被害をもたらしました。

防波堤を乗り越えた大津波、瓦礫の上に降り積もる雪、避難生活。海に沈んだピアノ、名もわからぬ人々の墓標、様相を変えてしまった海岸、そして追悼と復興の願いが込められた夏祭りのともしびー『子どもたちの3.11 ユニセフ東日本大震災報告写真展』で展示されるこれらの写真は、写真家21名と新聞・通信社25社のカメラマンがとらえたものです。前代未聞の災害に際し、「写真を通じて何ができるか」「写真で伝えられることは何か」というカメラマン一人ひとりの強い思いが作品群となって集約されたものです。

最大で3メートル幅の垂れ幕にプリントされた身の丈ほども大きな写真は、被災地にいるかのような臨場感で現地の方々の息づかいまでが伝わってくるようです。被災された方々の状況・心情を理解しようと努めることから、支援の一歩は始まると言えるかもしれません。

本展の開催にあたり、フォトジャーナリストの新藤健一氏、写真弘社 柳澤卓司氏、日本ユニセフ協会にご協力を賜りました。心から御礼申し上げます。

■交通のご案内

<各駅からのバスのご案内>

◎東急田園都市線 青葉台駅より、バス
「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車

◎東急田園都市線 市が尾駅より、バス
「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車

◎小田急線 柿生駅より、バス
「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

<タクシーの場合>

東急田園都市線 青葉台駅・あざみ野駅、小田急線 新百合ヶ丘駅南口が便利です。必ず「桐蔭学園　鉄（くろがね）神社前」と運転手にお伝えください。

※駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮ください。